

# 大富地区から発信する農の楽しさ、食の素晴らしさ ～ 作る人、食べる人が集まる箱になる ～

森谷政雄・佐栄子（東根市）

## 1 受賞者の概要

森谷政雄氏は、平成元年に経営移譲後は、水稻及び果樹の面積を徐々に拡大し、生食用ももの生産に県内で先駆的に取り組んだ。また、指導農業士を13年間務め、若手農業者の指導や食育活動等を行い、地域貢献を行った。最近は息子夫婦に果樹栽培を任せる等、役割分担を行っている。



森谷夫妻

政雄氏の母は県内一の売上げを誇る直売所「よってけポポラ」の立上げに尽力し、6次産業化にかける思いを継いだ政雄氏の妻、佐栄子氏は、平成18年に農産加工事業を開始、多くの魅力的な商品を開発するなど地域をリードする存在となった。平成29年には、長女も運営に携わる形で長年の夢であった地元農産物を活用するレストラン併設型直売所「農haco」を開設するなど、親子3代での6次産業化の取組みとなっている。

## 2 特色ある活動

### (1) 安全・安心でおいしい農産物へのこだわりと食育活動

政雄氏は、果樹の栽培の技術向上のために大富果樹研究会に入会し、果樹に関する疑問の解決や考えを実証する研究を行うなど近隣の青年農家の先頭となり活動（平成7～8年に会長）してきた。美味しさへの探求心は長男にも受継がれ、りんご生産においては、蜜の入りやすい品種の導入、りんご蜜入りセンサの設置など徹底した品質管理が実施されている。

### (2) レストラン併設型直売所「農haco」の取組み

自家栽培の農産物に加えて、地元農水産物のPRを積極的に行っている。直売スペースには、大富地区の特徴的な農畜産物が並び、飲食スペースで提供されるランチは地元農水産物の使用率80%を超える。これらの情報を発信するために毎日更新されるSNSは大きな宣伝効果を発揮している。



レストラン併設型直売所「農haco」

高齢者の利用を考えた店舗のバリアフリー化と移動手段を持たない買物客に向けた品揃えを実施。親子連れで体験し、楽しむことができる「米粉クッキーづくり」や「田んぼヨガ」などのワークショップを定期的で開催するなど、高齢者に優しく、子供も楽しめる空間作りに取り組んでいる。

## 3 今後の発展方向

- (1) 地域の離農者の水田を引き受けるために、密苗等の省力技術を導入。管理可能な10ha程度を目途に集積度を高めた水稻栽培を目指し、令和5年頃にミニライスセンターの建設を予定。
- (2) 消費者の喜ぶ果実の提供のために、新品種「やまがた紅王」の新植を実施中。
- (3) 農haco来店者の裾野を広げるためのワークショップ拡充とこだわりの農産物を使った新商品開発を継続。